

2022年度 昭和大学 II期

【 講 評 】

今年度も大問4問の構成だが、大問4が漢字問題に変更している。大問1の文章は、評論として標準的な難易度の文章だが、設問数が16問と多く、そのうち2問が記述問題である。また、大問2と大問3は、文章自体は平易だが、空欄補充問題に加えて、傍線の内容説明問題や原文に書かれていたことを推測して記述する問題があり、難易度を高めている。したがって、普段から抽象度の高い文章を読解し、内容を正確に把握する練習をするだけでなく、国公立2次で出題される記述問題を解く経験を重ねておく必要がある。

【 解 答 】



設問1 イ

設問2 エ

設問3 「仰々しく」「粗雑な論理」と断定した直後に、「颯爽」と「簡潔」という《ためらい》めいた言葉を丸括弧で包んで付け加える表現。

設問4 エ

設問5 エ

設問6 よく似ているけれど微妙にちがっている(18字)
どことなく心ぼそい存在に変わってしまう(19字)

設問7 ウ

設問8 ウ

設問9 エ

設問10 ウ

設問11 3

設問12 A=イ B=ウ C=オ D=ア

設問13 オ

設問14 イ

設問15 言語表現の技法は、言語の本質的な原理にもとづいているから。(29字)

設問16 a=擬態 b=機微 c=敢 d=潔癖 e=遺憾

二

設問 1 エ

設問 2 進化学的、遺伝学的にユダヤ人はゲルマン人より劣っているという間違っただ科学的事実を信じ込まされた人々が、劣っている存在を排除するのは当然であるという価値判断をし、ユダヤ人を排除した。

設問 3 本来価値をともなわない中立的な科学的事実を社会的な価値と結びつけて解説するような説明。

設問 4 知識があると知識の適切な使い方ができず、知識を使わない方が適切な場面でも、知識を使ってしまいう傾向がある。

設問 5 科学的知識を使用した一見科学的に思える説明を好むこと。

設問 6 実際には、その知識を使用するのが不適切な場合でも知識を使用し、一見科学的な説明をしがちであるということ。

三

設問 1 イ

設問 2 ア

設問 3 オ

設問 4 ウ

設問 5 ア

設問 6 細かい儀礼とは、ある目的を達成するための最も効率的な方法

設問 7 オ

四

設問 1 傲岸不遜

設問 2 嵐影湖光

設問 3 阿鼻叫喚

設問 4 多岐亡羊

設問 5 合従連衡

設問 6 愁眉

設問 7 曲学阿世

設問 8 出藍

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>